

委員会視察報告書

委員会名	議会広報広聴常任委員会
視察地	埼玉県所沢市
調査項目	若者との意見交換会について
調査目的	所沢市議会と高校生・大学生との意見交換会について調査し、柏崎市議会における取組の参考とする。
日時	令和8（2026）年8月5日（水）午後2時～午後3時30分
場所	所沢市役所（埼玉県所沢市並木一丁目1番地の1）
調査概要	【所沢市の概要】 ・面積72.11㎢ ・人口342,473人（令和8年2月末日現在） ・航空発祥の地 ・狭山茶の産地 ・議員33名 広聴広報委員会12名 【実施の経緯】 ◆若者（高校生・大学生）との意見交換会を実施するに至った経緯 ・従来の議会報告会（一般向け）は参加者が固定化（特定の市民・高齢層中心）、コロナ禍による集客難などにより、若者層（市民）を呼び込むことが困難であった。 ・議会側からアプローチする形で高校生（所沢高校・所沢西高校）や大学生（早稲田大学人間科学部）に対象を広げ、正式な議会報告会・意見交換会としてスタートした（高校生向けは正式開始後3年目）。 【運営体制・実施方法】 ◆高校・大学側の教育活動・カリキュラムとの接続 ・高校：特設カリキュラムとして厳密に組み込まれているわけではないが、社会科担当教員側の高い理解・協力のもと、「生徒に貴重な体験をさせたい」という趣旨で3年間継続している。 ・大学：平成29年に所沢市・市議会と早稲田大学で締結した協定に基づき実施。また、議会インターンシップ（年2回、各2名程度）とも連動している。 ◆テーマ設定・グループ編成・活性化の工夫 ・テーマ設定：以前は議会側から提示（「所沢をよくしていくために」等）

	していたが、生徒側から「自分たちで選びたい」と提案があり、現在は議会が用意した4つのテーマ（例：「10年後の所沢のために住み続けたい街」等）から選択する4択方式を採用。 ・グループ編成：1班8名程度の生徒・学生に対し、議員が2名ずつ入る小グループである。 ・活性化の工夫：議会報告の説明内容を高校生の身近な話題（例：小・中学校の修学旅行無償化や市民医療センター再整備に係る事業費等が盛り込まれていた新年度予算を否決）に大幅に絞り込んでいる。模造紙や付箋を活用したワークショップ形式を採用。 ・服装：スーツではなくオリジナルのポロシャツ（「みみまるカフェ」ポロシャツ）等を着用し、生徒の警戒感を解く雰囲気演出。 ◆議会報告と意見交換の比率・時間配分・内容の取りまとめ ・時間配分：全体で約1時間半程度。 ・議会報告（説明）：10分～15分程度（身近な話題2点程度に絞り込む） ・意見交換（ワークショップ）：40分～60分程度 ・取りまとめ：事務局・広聴広報委員会において、A4判1枚程度の要約資料（学校別の意見まとめ）として整理・作成。 ◆小グループでの議員個人の意見と議会全体の考え方の差異・事前研修 ・事前研修・指導：一切行わない（指導・検証なし）。 ・理由・スタンス：会派の意見を押し付けたり変に事前指導を行ったりせず、「生徒の話を聞く・引き出す・緊張をほぐす役に徹する」ことを議員間の共通認識（スタンス）としているため。 ◆一般市民向けと若者向け意見交換会の実施頻度 ・全体枠組み：議会基本条例／要綱に基づき「年4回」開催。 ・高校生向け：年2回（7月開催／受験期回避及び総合型選抜等の時期を考慮） ・大学生向け（早稲田大学）：年1回（11月開催） ・一般市民向け：年1回（11月開催。過去に若者限定にした際、一般市民から開催要望があったため1回分を確保） 【意見の活用・市政への反映】 ◆出された意見・提言の活用・整理・共有手順及び事例 ・整理手順：正副委員長連絡協議会等で意見を共有し、活用可能なものを所管や担当部署へ伝達・共有（かつての上越市議会方式を参考に、委員会審査・行政要望・経過観察・傾聴の4分類で管理していたが、現在はワークショップ形式で意見が多岐にわたるため、正副委員長経由での共有を主としている）。
--	---

	・具体例1：県立高校の体育館エアコン未設置に関する意見を受け、市議会から埼玉県へ「体育館へのエアコン設置に関する意見書」を提出・送付。 ・具体例2：「通学路の道路が狭く危険」との意見から、現場の交通安全対策見直しを実施。 ◆施策・事業・予算・条例等につながった具体例 ・若者向け意見交換会そのものは「必ず政策・PDCAに乗せること」だけを目的にしていない。 ・過去の「こどもルネサンス事業（小学生対象）」等で提案された具体的な道路改修・公園整備が予算に反映された実績はある。 ◆市民へのフィードバック・プロセスの発信方法 ・実施結果や集約された意見・対応状況については、議会報（議会広報）や公式Webサイト等で概要を取りまとめて公表・発信する。 【その他】 ◆継続するためのポイント ・ドレスコード（服装）の配慮：スーツ着用を避け、ポロシャツ等のカジュアルな服装で親しみやすさを演出している。 ・学校側との地道な信頼関係：政治的中立性への懸念を払拭するため、時間をかけて学校現場・教員との信頼関係を築くことが重要。 ・「聴く」姿勢の徹底：議員側が教え込もうとせず、若者の意見を柔軟に受け止めるスタンス。 ◆想定以上に良かった・印象的なエピソード ・参加した高校生（市外から通学）が自発的に「自分の住む別の市でも高校生議会をやってほしい」と自市の議会に働きかけて実現させた。 ・前年不採用だった意見（雪の日の避難場所等）を「合意形成の大切さを学んだ」として翌年再度提案しに来た生徒の存在。 ・高校生自らが「市の発信力を強化したい」と市長に直談判し、PR動画やSNS発信の自主制作を提案した。 ◆主権者教育としての成果 ・数値化は困難であるが、「自分たちの意見が議会や行政に届く」「言っても変わらないわけではない」という体験（合意形成プロセスの学習）を提供できている。
視 察 の 様 子	 

質 疑 応 答	質問1 市内高校（県立4・私立3）のうち現在2校で実施している経緯は。
	回答1 当初は市内の高校を飛び込みで回ったが警戒感が強かった。現在実施中の2校（所沢・所沢西）は教員の理解が深く、また議員にOB・OGがいる縁もあり定着した。
	質問2 市内の15中学校に対する主権者教育・意見交換の検討状況は。
	回答2 中学生対象の意見交換は現在実施していない。小学生対象の「こども議会」は教育委員会主催事業に協力する形で実施している。
	質問3 教育委員会を通じて中学校に対して意見交換を働きかける選択肢はなかったか。
	回答3 学校現場や教育委員会は多忙であり、また保護者等からの「政治的中立性」に対するクレームを過剰に警戒する傾向があるため、都市部ではハードルが高い。
	質問4 過去に実施した「みみ丸カフェ」の演出について
	回答4 コロナ禍前までワールドカフェ形式で実施。楽しい雰囲気づくりのため議員自ら工夫した。
	質問5 参加する高校生・大学生の人数規模、参加層は。
	回答5 毎回20名～25名程度が参加する。生徒会、ボランティア部、茶道部などの部活単位やゼミ生が中心。プライバシー保護のため、高校生のSNS露出や写真撮影には細心の注意を払っている。
	質問6 生徒から出された具体的な要望（「道を直してほしい」等）のその後の処理手順と成果は。
	回答6 正副委員長連絡協議会で共有し、行政へ伝達。過去の例として、障がい者団体からの要望を機に本会議場へ「リアルタイム字幕」を導入した事例などがある。
	質問7 学生の意識変化や報道・新聞への関心、SNSでの自発的発信などの変化が見られるか。また、新聞を読まない学生への対応は。
	回答7 ネットニュース等で地元の話題（予算否決等）をチェックする生徒はいる。SNS等で自主発信する動きも芽生えているが、強制せず興味のある生徒が自由に参加・発信できれば良いと考えている。
	質問8 年4回の議会報告会に対応する議員33名の割り振りはどう決めているか。
	回答8 広聴広報委員会の正副委員長が、会派や委員会のバランスを考慮して割り振る。希望制にすると偏るため強制的に指定している。
	質問9 早稲田大学との協定締結の経緯とインターンシップの具体的な運用について

	回答9 市と大学の協定締結に伴い議会とも連携。年2回(各2名)受け入れ、副議長を総責任者として各会派持ち回りで担当を配置。一般質問のヒアリングなど議会の裏側まで見せている。 質問10 議会改革に対する議員全体の意識の維持・継承の課題について 回答10 全国共通の課題と受け止める。新人議員にも必ず視察対応や広聴活動を経験させ、理念や精神を少しずつ引き継ぐように取り組んでいる。
委員会所感	【田邊委員長】 所沢市議会の若者との意見交換会について視察先にて話を伺った。若者層に議会の声を届けるための丁寧な工夫と、学校現場との信頼関係づくりの重要性を改めて認識した。従来の議会報告会では若年層の参加が得られなかった課題に対し、議会側から高校・大学へ積極的にアプローチし、教育活動と緩やかに接続させながら継続している点は大きな特徴である。特に、議員が「教え込む」のではなく、生徒の意見を引き出す姿勢を徹底し、服装やテーマ設定、ワークショップ形式など心理的ハードルを下げる工夫が随所に見られた。また、出された意見を正副委員長経由で行政へ共有し、体育館へのエアコン設置意見書提出や通学路改善など具体的な成果につながっている点は、若者の主体性を育む好循環を生んでいる。都市部では政治的中立性への懸念から学校との連携が難しいとの指摘もあったが、地道な信頼構築により継続性を確保している姿勢は、柏崎市の広聴活動を深化させる上で大いに参考となった。 【山崎副委員長】 所沢市議会において、若い世代との意見交換の場づくりを積極的に行っている現状について、実情を交えて伺う機会となった。 若い世代との意見交換を実現するためのプロセスを伺い、特に所沢市内高校7校全てに広聴広報委員会が説明に行き、2校の協力で意見交換につながった点や、服装に気をを使うなど、学校と議会の相互理解により広聴活動に成果が出ている点を学ぶことができた。 今後も時代の変化を捉えつつ、議会の動きを市民に知ってもらいながら、若い世代に限らず様々な世代、属性の市民の考えに耳を傾け、より有効な広報広聴の場づくりを引き続き模索していくことが必要であると感じた。 【池野委員】 若者との意見交換を始めたきっかけは、市民との意見交換会におけるメンバーの固定化という柏崎市と共通の課題からであった。一度、高校との意見交換のみに変えたら、市民との意見交換もやってほしいとの声があり、現在は7月に2高校、11月に大学、一般市民と年4回意見交

換会を行っている。大学との開催の経緯としては、元々、所沢市が早稲田大学と協定を既に結んでいたこともあり、市議会としても平成28年に大学と協定を結び、意見交換会を継続している。

高校とは、議員で高校へ出向き、どういう形ならできるか事前に話し合い、2校から了承を得て開催している。時期は、総合型選抜（旧AO入試）に使えるように7月開催とし、市議会で作った4色のポロシャツを着用するなどラフな服装で警戒心を取り、安心して意見が言えるような配慮をしている。流れとしては、前半は高校生の関心に合わせた議会報告をしてからグループごとに意見交換。テーマは事前に4つ提案し、その中から高校側に選んでもらっており、テーマ選択の方法や、服装、会場装飾などの工夫について、参考となる視察であった。

【近藤委員】

所沢市議会は、若者向け・一般向けの意見交換会を継続的に実施し、広聴活動として定着している。高校生との意見交換会は2校との連携を軸に継続しており、必ずしも市内全校を対象にしなくても、理解ある学校が1校でもあれば突破口となることを示している。また、大学生との意見交換は、市と大学の協定を基盤としつつ、ゼミ活動の一環として位置付けられていることが継続性を支えている。若者の意見が必ずしも政策実現に直結しないとしても、議員と直接対話することにより、市政や議会への関心を深める効果は大きく、双方にとって意義がある取組だと思う。継続性のポイントとしてラフな服装が挙げられたが、議員が自らの発言に責任を持ちつつ、若者の意見を尊重し、リラックスして話せる環境をつくることが重要だと感じた。

柏崎市議会としても大学との意見交換を継続しつつ、高校に対しても同窓会など既存のつながりを活用しながら働きかけを行い、高校生との意見交換会を実現できると良いと思う。

【山本委員】

所沢市議会の「若者との意見交換会」の取組の背景として、従来の市民向け議会報告会では参加者が限定されるため、若い世代の声を取り込むチャンネルとして高校生や大学生との意見交換会を開始したとお聞きした。その中で主な実施内容と工夫については、高校生との意見交換では、生徒の警戒心を解くため議員はカジュアルな服装で参加して、生徒の自主性を尊重したテーマ設定やグループワークを行い、担当教員との信頼関係を軸に継続しているとのこと。また、大学生との意見交換会では協定を結ぶ大学と専門的なテーマで議論を行うほか、議員インターシップを受け入れ、ヒアリングへの立ち会いなどを通じて双方に刺激となる学びを提供していた。特に印象に残ったのは大学生に一般質問を作ってもらい、非常によくできていた質問だったと議員から伺って、面白

い効果があると感じた。また、成果と課題では全ての意見を即座に政策化することだけを目的とせず、若者の意見を聞く場の確保や政治への親近感醸成を重視し、一方で、一般市民向け報告会の在り方の見直しや、議会改革のノウハウを、世代を超えてどう継承していくかが課題として挙げられたことを伺い、柏崎市議会も同じ悩みを抱えている現状を踏まえ、今回の視察で学んだ事を柏崎市議会の広報広聴活動に生かしていきたい。

【西川委員】

高校生や大学生との意見交換会を実施した経緯や取組、課題について説明を受けた。市議会と早稲田大学との連携協力に関するパートナーシップ協定を契機に始まった「みみ丸カフェ」は、若者との接点をつくり、議会の広聴機能を強化する突破口となった。その経験から得られた課題を生かし、現在は市内2つの高校と意見交換会を行っている。高校生ならではの柔軟な発想や提案を受け止める姿勢が特徴であり、若者の声を聴くだけでなく、具体的な提案につなげていくことが重要である。

なお、今後の展開においては、市民向けの意見交換会の運営の在り方や、議会としての制度設計が課題であると感じた。

【持田委員】

高校生との意見交換の中で、意外と新聞を読んでいないことに驚いた。今日的現象なのかもしれないが、学校において新聞記事の取扱いや学び方など、一般的にも授業の中で意識的に取り入れていかなければならないのではないかと。スマートフォンが中心なのかもしれないが、未来に対して、少し、深刻な現象を垣間見る思いである。

また、若者との意見交換会では、一般的な設問だけでなく、「参加したくなる環境の設定」が重要ではないかと感じた。例えば、最初から関わられる、成果が見える「スポーツの話題」なども取り入れてみることも一案と感じた。

さらに、若者の声を聴くだけでなく、彼らが「社会参画の醍醐味」を感じられることや主権者意識の向上につながっているかなど、継続的な取組が大切ではないかと考える。

【重野委員】

前回、所沢市に視察に来た時にも聞いていた市議会のマスコット「みみ丸」。その設定意味を改めて感じた。高校生や大学生との意見交換会を長く続けてきたこともその意識の表れだと思った。年4回の意見交換会の実施はなかなかできることではない。すばらしい取組だと思う。柏崎市では中高生と意見交換をするなら市内5つの全高校と行うとか市内全中学校を対象としなければ平等ではなく不公平感が出るのでは、と考えてしまう。所沢では計画した当初、全高校に議員が回り実施の説明や依

頼をしたとのことで、その後、可能とした2校のみの実施になったが、それを特に問題とは捉えていないところがいいと思った。また、中学生との意見交換会は検討もしていないことや若者対象ではない市民向けの意見交換会に議員が持っている意識など柏崎との考え方にかかなりの違いがあるように感じた。様々な実施形態や考え方に触れられて意義深い視察だった。

【三宮委員】

今回の視察では、所沢市議会が取り組む「若者との意見交換会」について学び、議会と若者との接点をつくることの重要性を改めて認識した。若者を単なる意見を聞く対象として捉えるのではなく、まちづくりの担い手として位置付け、議員と直接意見を交わす機会を設けている点は、大変参考になる取組である。特に、若者が日頃感じている地域の課題や将来への思いを率直に語ることで、議員側にとっても従来の議会活動だけでは把握しにくい視点を得られることに意義があると感じた。

柏崎市においても、人口減少や若者の市外流出が課題となる中、若い世代に「自分たちのまちを自分たちで考える」という意識を持ってもらうことが重要であると改めて感じた。

【相澤委員】

所沢市議会が「意見交換会」をテーマとした行政視察を数多く受け入れていることから、意見交換会の在り方については、本市議会だけが抱える課題ではなく、多くの議会が同様の悩みを抱えていることがうかがえた。

現在、本市議会では議会基本条例における議会報告会等の実施規定に基づき、意見交換会を実施している。議会基本条例制定以前から市民の意見や要望を受ける機会があったものの、どちらかといえば「受け身型の広聴」であった。条例制定後は、議会自らが地域へ出向き、活動を説明するとともに市民の意見を聴き、政策形成につなげる積極的な広聴へと変化してきた。本市議会も議会基本条例制定から12年が経過し、これまでの議会改革で築いた仕組みを、時代に合わせて更新する時期に来ていると感じた。

今後は、若者はもとより、これまで議会と接点を持ちにくかった人たちとの対話をいかに生み出すかが重要であり、「誰の声を、何のために聴くのか」を問い直すことが、新しい広報広聴につながると考える。

【春川委員】

同市は意見交換会を年4回開催している。高校生対象は3年目、大学生とは昨年からは実施しており、大学生の参加対象は早稲田大学人間科学部の学生である。学生との意見交換会から、一般質問へと発展していく事案があることがとても印象的であった。

	一方、一般市民向けの意見交換会については、一昨年全4回を全て高校生対象としたことを受け、共産党議員から市民向けも実施すべきだとの提案があり、同党が対応している点が特徴的であった。 意見交換会でのテーマが定例会に関わる報告会であり質疑応答が少ない。むしろ参加者との意見交換がメインのように感じた。 意見交換会では、議員サイドの服装がとても大事でリラックスした雰囲気づくりがとても重要であるとした。本市の意見交換会の服装やテーマの選定について学ぶところが多かった。
--	---